

舘 秀典 (弁理士) 著

用途発明の法理論

－発明概念の歴史的・比較法的考察－

A5変・上力・400頁 8,800円(税込) ISBN978-4-7972-7049-5 C3332

日本の国際競争力を高める「用途発明」を詳説

本書は、主として、用途発明を取り上げ、この用途発明を通して、発明概念の捉え方を、アメリカ特許法やイギリス特許法及び、ドイツ特許法といった比較法の視座や、歴史的背景などから検討することにより、わが国の特許法における「用途発明」の存在意義を明らかにし、モノが有する用途や機能を保護する手段として必要不可欠な法理論を考察することで、日本のイノベーションを促進し産業を発展させ、国際競争力を強化するために重要な役割であることを結論づけ、発明概念の捉え方に新たな示唆を与える書です。

【目次】

第一部 序論

第一編 序論

第二編 用途発明とは

第三編 用途発明の問題点

第二部 比較法上の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第一編 わが国の特許法の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第二編 アメリカ特許法の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第三編 欧州特許条約の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第四編 イギリス特許法の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第五編 ドイツ特許法の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第六編 比較法から見た各国の物の発明、方法の発明と用途発明の関係

第三部 実態としての発明と、技術思想としての発明

第一編 序章

第二編 イギリスにおける発明の捉え方の確立

第三編 アメリカにおける発明の捉え方の確立

第四編 ドイツにおける発明の捉え方の確立

第五編 わが国特許法における発明概念の解釈への示唆

第六編 現代の科学技術に対する発明概念の捉え方による相違

第七編 発明概念の捉え方の違いは何を意味するのか？

第八編 現代における用途発明の意義とわが国の産業政策

第四部 結論



刊行：2024年1月30日

〈著者紹介〉

舘 秀典 (たち・ひでのり)

1994年 日本大学大学院修士課程物理学専攻修了

1994年 花王株式会社入社

2004年 弁理士資格取得

2011年 名古屋商科大学ビジネススクール修士課程修了

2016年 筑波大学大学院修士課程修了

2022年 筑波大学大学院博士課程修了 (博士 (法学))

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9-102 東大正門前
TEL:03(3818)1019 FAX:03(3811)3580 E-mail:order@shinzansha.co.jp



信山社

http://www.shinzansha.co.jp